

令和5年(2023年)上半期火災・救急・救助の概要について

火災概要

令和5年上半期の火災発生件数は9件で、前年同期と比べ5件の増加となっている。火災種別ごとに前年同期と比較すると、建物火災が5件で2件の増加、その他の火災が4件で3件の増加となっている。

火災による焼損棟数は8棟で、前年同期と比べ5棟の増加となっている。焼損程度ごとに前年同期と比較すると、全焼が1棟の皆増、部分焼が2棟で1棟の増加、ぼやが5棟で3棟の増加となっており、焼損面積は床面積が645平方メートルの皆増、表面積が1平方メートルの皆減となっている。

火災による人的被害は負傷者がなく、死者が1人の皆増となっている。

り災世帯は、全損が1世帯の皆増、小損が5世帯で2世帯の増加、り災人員は13人で5人の増加となっている。

火災損害額合計は4,562万6千円で、前年同期と比べ4,433万6千円の増加となっている。損害種別ごとに前年同期と比較すると、建物損害が4,562万2千円で4,433万2千円の増加、その他の損害が4千円の皆増となっている。

出火原因の状況については、放火、たき火が各2件、火入れ、電気機器、配線器具、電灯・電話等の配線、不明が各1件となっている。

前年同期と比べ火災件数は増加しており、なかでも、放火が2件発生していることから、今後も更に放火による火災発生防止の徹底を図り、防火広報やパトロールの強化及び警察との連携強化に努めるとともに、市民や各事業所と一体となって、放火されない環境づくりに取り組み、安心・安全な暮らしの実現を目指す。

火災状況

区 分	年 別		令和5年 (2023年)	令和4年 (2022年)	前年との 比 較
出火件数 (件)	計		9	4	5
	建 物	火 災	5	3	2
	林 野	火 災			
	車 両	火 災			
	船 舶	火 災			
	航 空 機	火 災			
	そ の 他 の 火 災		4	1	3
焼 損 棟 数 (棟)	計		8	3	5
	全	焼	1		1
	半	焼			
	部 分	焼	2	1	1
	ぼ	や	5	2	3
焼 損 面 積	建 物 (㎡)	床 面 積	645		645
		表 面 積		1	△ 1
	林 野 (a)				
人 的 被 害 (人)	死 者		1		1
	負 傷 者				
り 災 世 帯 (世帯)	全 損		1		1
	半 損				
	小 損		5	3	2
り 災 人 員 (人)			13	8	5
損 害 額 (千円)	計		45,626	1,290	44,336
	建 物	損 害	45,622	1,290	44,332
	林 野	損 害			
	車 両	損 害			
	船 舶	損 害			
	航 空 機	損 害			
	そ の 他 の 損 害		4		4
	爆 発 損 害				
1 日 平 均 損 害 額 (千円)			252	7	245
市 民 1 人 あ た り の 損 害 額 (円)			625	18	607
火 災 1 件 あ た り の 損 害 額 (千円)			5,070	323	4,747
建 物 火 災 1 件 あ た り の 焼 損 床 面 積 (㎡)			129		129
出 火 率 (件/万人)			1.2	0.5	0.7

△は減少を示す

救急概要

令和5年上半期の救急出動件数は2,097件、搬送人員は1,930人で前年同期と比べ出動件数は74件、搬送人員は32人増加し、1日平均11.6件の出動となっている。

事故種別ごとでは、急病1,473件、一般負傷354件、交通事故121件で全体の92.9%を占め、以下、転院搬送69件、労働災害23件、運動競技15件、自損行為13件、火災1件、その他28件となっている。

事故種別ごとに前年同期と比較すると、一般負傷54件、急病21件、その他14件の増加に対し、自損行為7件、加害4件、交通事故、労働災害が各2件の減少、転院、運動競技、火災は増減なしとなっている。

搬送人員1,930人の傷病程度については、死亡25人、重症65人、中等症638人、軽症1,202人であり、入院加療を必要としない軽症者が全体の62.3%を占めている。

事故種別ごとに軽症者の占める割合を見ると、交通事故84.6%、一般負傷73.7%、急病59.4%となっている。

医療機関への収容先については、城陽市内43.5%、久御山町内24.5%、宇治市内20.5%、京田辺市内8.7%、京都市内2.5%、その他の京都府内0.3%、他府県0.1%となっている。

市民等に対する応急手当普及啓発活動は、上級救命講習の実施はなく、普通救命講習Ⅰ（3時間）を13回143人、その他の講習を27回1,062人に対して実施している。

救急出動状況は、前年同期と比べ出動件数で3.7%増加、搬送人員で1.7%の増加となっている。搬送人員のうち高齢者の占める割合は68.0%となっており、前年同期と比べると1.5ポイントの減少となっているが、高齢化社会を象徴する状況が続いている。

また、搬送人員に占める軽症者比率が高いことから、今後も救急車の適正利用について啓発活動を続けるとともに、救急隊現場到着までの空白時間を埋めるため、応急手当普及啓発活動をさらに推進し、救命率の向上に努める。

救急状況

年 別 区 分		令和5年(2023年)			令和4年(2022年)			前年との比較			
		出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	
事 故 種 別	火 災	1		1	1		1				
	自 然 災 害										
	水 難										
	交 通 事 故	121		117	123	2	119	△ 2	△ 2	△ 2	
	労 働 災 害	23	1	22	25		24	△ 2	1	△ 2	
	運 動 競 技	15		15	15	1	15		△ 1		
	一 般 負 傷	354		335	300		291	54		44	
	加 害				4		4	△ 4		△ 4	
	自 損 行 為	13		9	20		15	△ 7		△ 6	
	急 病	1,473	2	1,361	1,452	3	1,360	21	△ 1	1	
	そ の 他	転 院	69		69	69		69			
		医 師 搬 送									
		資 機 材 搬 送									
そ の 他		28	1	1	14			14	1	1	
合 計		2,097	4	1,930	2,023	6	1,898	74	△ 2	32	
不 搬 送 件 数 (件)		174			133			41			
出 動 延 べ 員 (人)		6,554			6,458			96			
1 日 平 均 出 動 件 数 (件)		11.6			11.2			0.4			
1 日 平 均 搬 送 人 員 (人)		10.7			10.5			0.2			
1 日 最 多 出 動 件 数 (件)		22			21			1			

△は減少を示す

傷病程度別救急搬送人員状況

傷病程度別 事故種別	急 病 (人)	交 通 事 故 (人)	一 般 負 傷 (人)	そ の 他 (人)	計 (人)	比 率 (%)
死 亡	21		2	2	25	1.3
重 症	51	3	11		65	3.4
中 等 症	480	15	75	68	638	33.1
軽 症	809	99	247	47	1,202	62.3
そ の 他						
計	1,361	117	335	117	1,930	100.0
軽 症 者 比 率 (%)	59.4	84.6	73.7	40.2	62.3	

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

収容先別救急搬送人員状況

収容先別 事故種別	急 病 (人)	交 通 事 故 (人)	一 般 負 傷 (人)	そ の 他 (人)	計 (人)	比 率 (%)
城 陽 市	576	58	175	31	840	43.5
久 御 山 町	345	31	75	21	472	24.5
宇 治 市	288	12	52	43	395	20.5
京 田 辺 市	111	16	30	10	167	8.7
京 都 市	39		2	8	49	2.5
そ の 他 の 京 都 府 内	2		1	2	5	0.3
他 府 県				2	2	0.1
計	1,361	117	335	117	1,930	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

年齢別救急搬送人員状況

事故種別 年齢別	急病 (人)	交通事故 (人)	一般負傷 (人)	その他 (人)	計 (人)	比率 (%)
新生児				1	1	0.1
乳幼児	62	1	30	2	95	4.9
少年	31	14	7	9	61	3.2
成人	316	67	36	42	461	23.9
高齢者	952	35	262	63	1,312	68.0
計	1,361	117	335	117	1,930	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

成人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

救 助 概 要

令和5年上半期の救助出動件数は30件、活動件数は24件、救助人員は19人で、前年同期と比べ出動件数は7件の増加、活動件数は9件の増加、救助人員は7人の増加となっている。

事故種別ごとの出動及び活動状況では、火災の出動件数は1件で活動件数が1件、交通事故の出動件数は2件で活動件数が2件、建物等による事故の出動件数は15件で活動件数が14件、その他の事故の出動件数は12件で活動件数が7件となっている。

事故種別ごとの救助人員及び傷病程度をみると、火災では1人を救助し、死亡が1人、交通事故では2人を救助し、中等症及び軽症が各1人、建物等による事故では11人を救助し、死亡及び重症が各1人、中等症が3人、軽症が6人、その他の事故では5人を救助し、軽症が3人、不搬送が2人となっている。

前年同期と比べ救助出動件数が増加しており、今後も都市構造の変化により複雑多様化する救助事象に対応するため、救助資器材の整備や訓練を重ね、隊員の知識・技術・体力の向上を図り、安全・確実・迅速な救助活動が展開できるように努める。

救助状況

年 別 事故種別	令和5年 (2023年)			令和4年 (2022年)			前年との比較		
	出動 件数 (件)	活動 件数 (件)	救助 人員 (人)	出動 件数 (件)	活動 件数 (件)	救助 人員 (人)	出動 件数 (件)	活動 件数 (件)	救助 人員 (人)
火 災	1	1	1				1	1	1
交 通 事 故	2	2	2				2	2	2
水 難 事 故									
風水害等自然災害									
機械による事故									
建物等による事故	15	14	11	1	1	1	14	13	10
ガス及び酸欠事故									
破 裂 事 故									
その他の事故	12	7	5	22	14	11	△ 10	△ 7	△ 6
合 計	30	24	19	23	15	12	7	9	7

△は減少を示す

事故別傷病程度状況

傷病程度 事故種別	活動 件数 (件)	救助 人員 (人)	傷 病 程 度					
			死 亡 (人)	重 症 (人)	中 等 症 (人)	軽 症 (人)	不 搬 送 (人)	
火 災	1	1	1					
交 通 事 故	2	2			1	1		
水 難 事 故								
風水害等自然災害								
機械による事故								
建物等による事故	14	11	1	1	3	6		
ガス及び酸欠事故								
破 裂 事 故								
その他の事故	7	5				3	2	
合 計	24	19	2	1	4	10	2	